

第1回

芦屋市上下水道事業経営審議会

下水道事業の現状と課題

計画の位置づけ

第5次芦屋市総合計画

- 将来像「人がつながり 誰もが輝く笑顔あふれる住宅都市」
- 都市基盤分野の施策目標「持続可能なインフラ整備が進んでいる」

芦屋市都市計画マスタープラン

- まちづくりの理念「美, 快, 悠のまち 芦屋」
- まちづくりの目標「安心して住み続けられる良質な居住環境づくり」

芦屋市下水道ビジョン

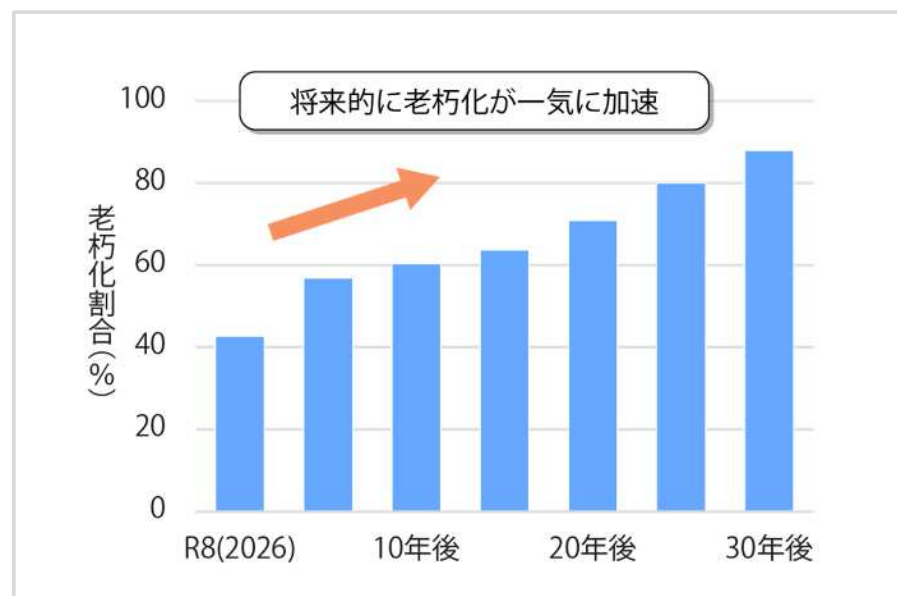
下水道施設の整備状況



1 施設整備

1-1 管路

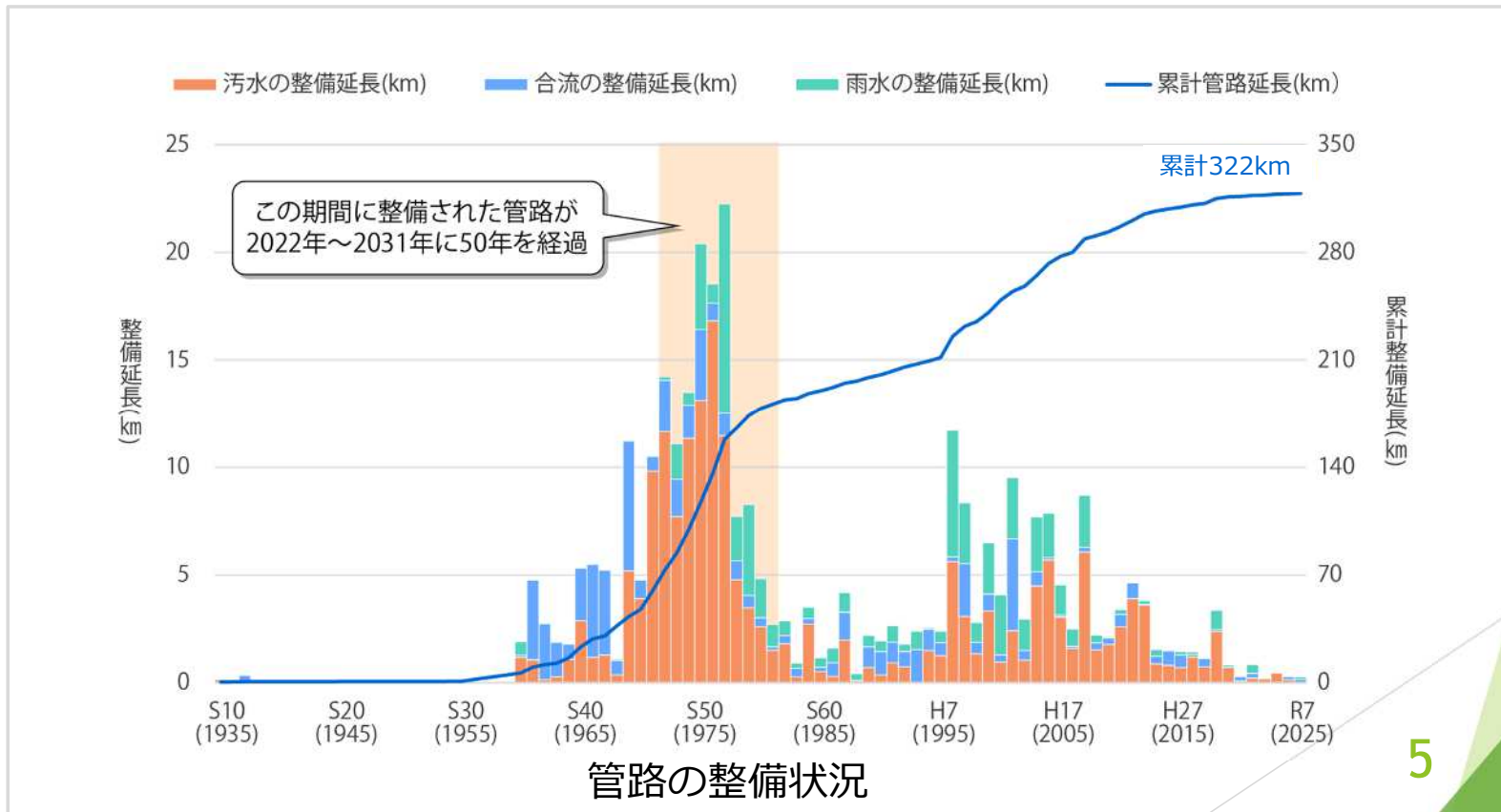
布設から50年以上経過する汚水・合流・雨水管路は、令和6年度（2024年度）時点で112kmですが、本ビジョンの最終年度である令和13年度（2031年度）には186kmとなり、全体の6割近くを占めるようになります。



管路の老朽化予測

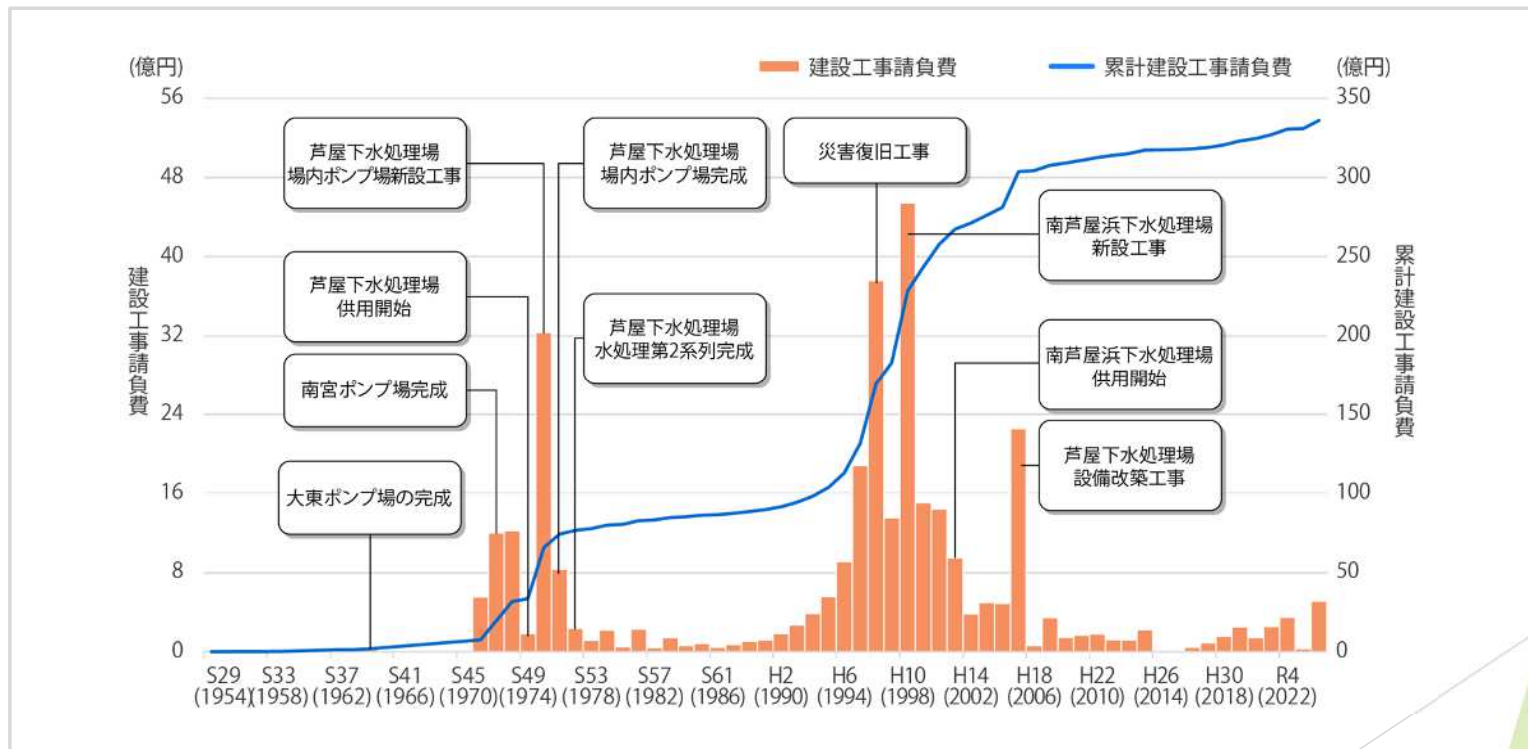
1 施設整備

1-1 管路



1 施設整備

1-2 処理施設



処理施設の整備状況

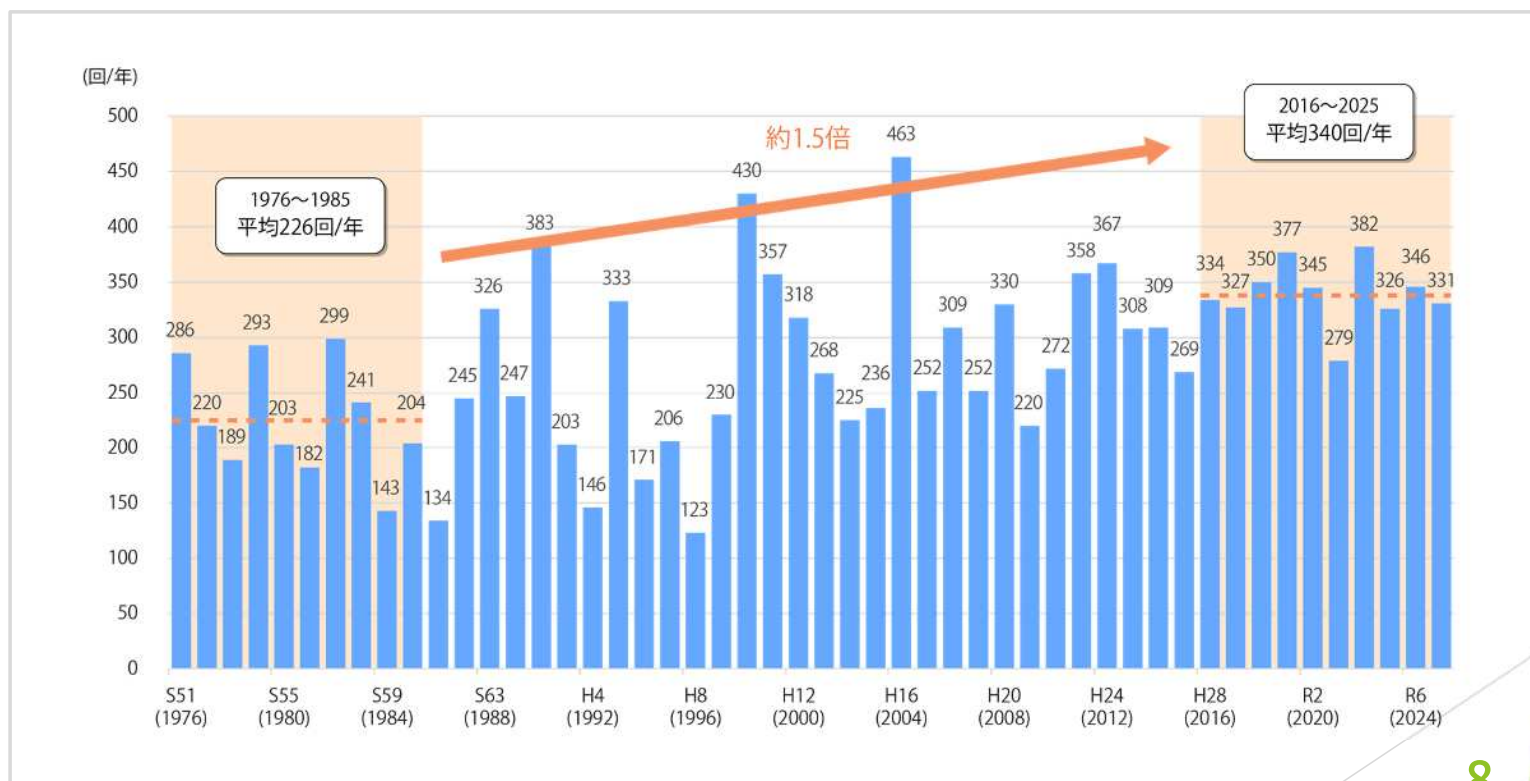
1 施設整備

■ 課題

- 下水道施設の機能を将来にわたり維持していくため、適切な維持管理を実施する必要があります。
- 管路や処理施設の機械・電気設備などの改築を確実に進める必要があります。
- 処理施設の土木・建築構造物の改築を計画的に進める必要があります。

2 危機管理

2-1 集中豪雨の多発



全国の1時間降水量50mm以上の年間発生回数

2 危機管理

2-1 集中豪雨の多発



平成25年8月



令和2年7月

2 危機管理

2-2 大規模な地震の発生

最近では東日本大震災、熊本地震、能登半島地震などにより、人命と共に都市の根本的な機能が失われる甚大な被害が発生しています。



液状化によるマンホール突出



汚水管路の脱落

2 危機管理

■ 課題

- 10年に一度程度の確率で降る雨を排除するため、雨水貯留施設の整備を進める必要があります。
- 浸水被害を軽減するため、雨水流出抑制の取組を支援するための情報提供を継続する必要があります。
- 地震対策のため、機能の重要度などを考慮し、管路・処理施設の耐震化を計画的に進める必要があります。
- 下水道BCPの見直しや災害対応訓練の実施など、ソフト対策を強化する必要があります。

3 水環境の保全

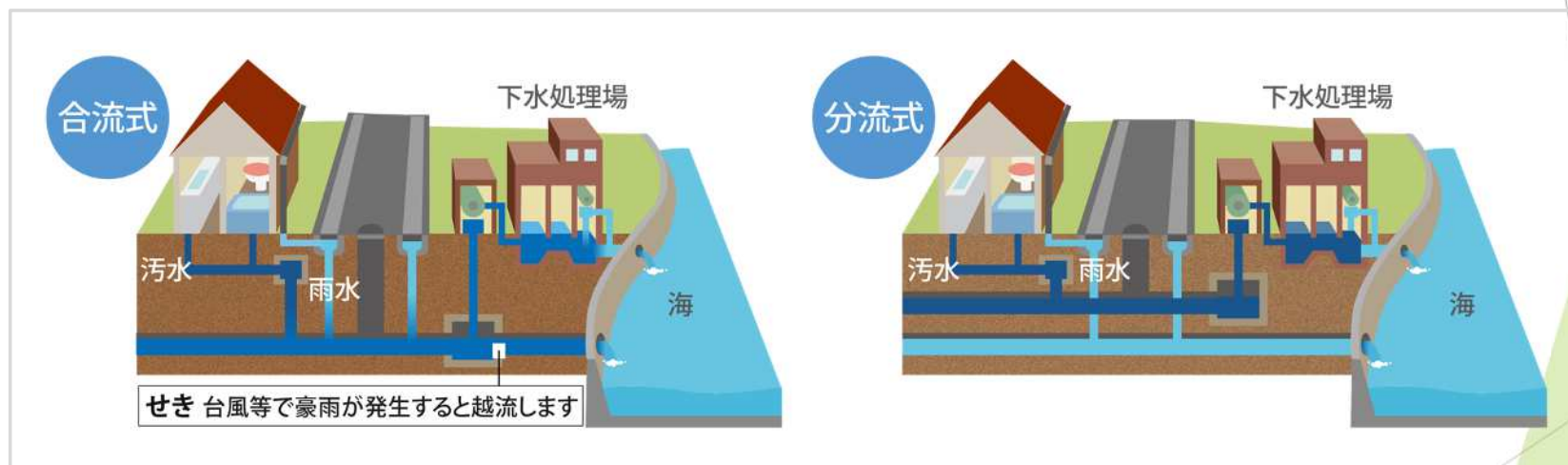
3-1 下水処理の高度化

| | BOD※ 生物化学的 酸素要求量 | COD※ 化学的 酸素要求量 | SS※ 浮遊物質 | T-N※ 全窒素 | T-P※ 全リン |
|-------------------|------------------------|----------------------|-------------|-------------|-------------|
| 芦屋下水処理場 高級処理 | 15mg/l以下 | 15mg/l以下 | 11mg/l以下 | | |
| 南芦屋浜下水処理場 高度処理 | 5mg/l以下 | 8mg/l以下 | 5mg/l以下 | 8mg/l以下 | 0.8mg/l以下 |

※各下水処理場では、上記全ての目標放流水質をクリアしています。

3 水環境の保全

3-2 合流式下水道の改善



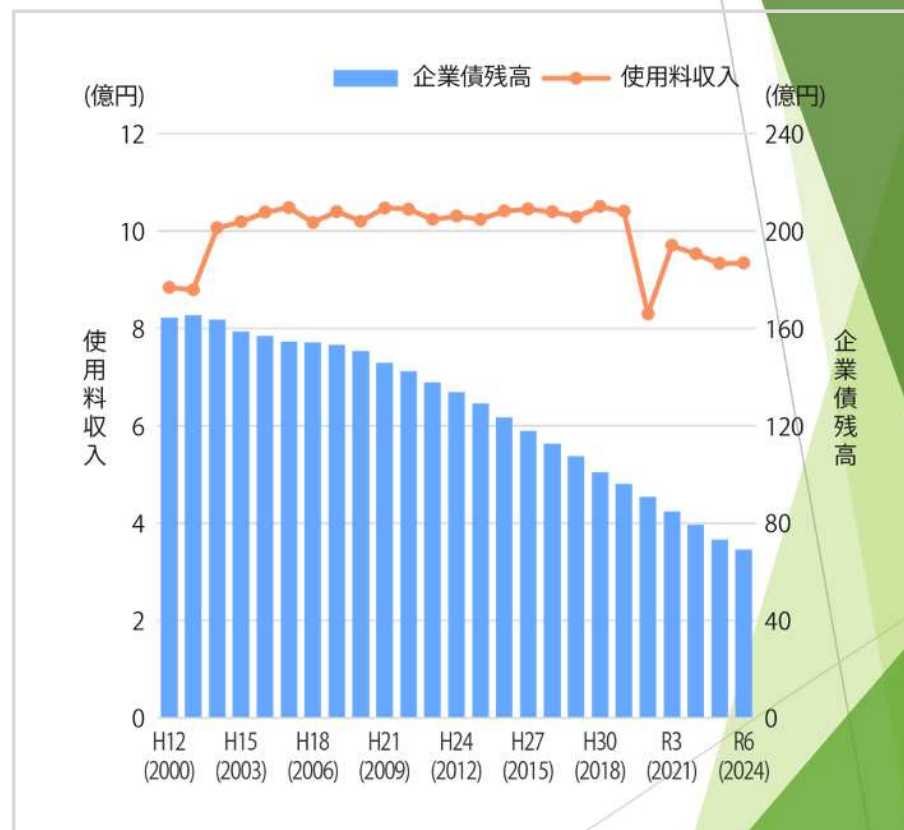
3 水環境の保全

■ 課題

- 良好な水環境の保全に貢献するため、下水処理場において処理水質の安定が必要です。
- 合流改善対策が完了していない処理区において対策を進める必要があります。

4 使用料と財務状況

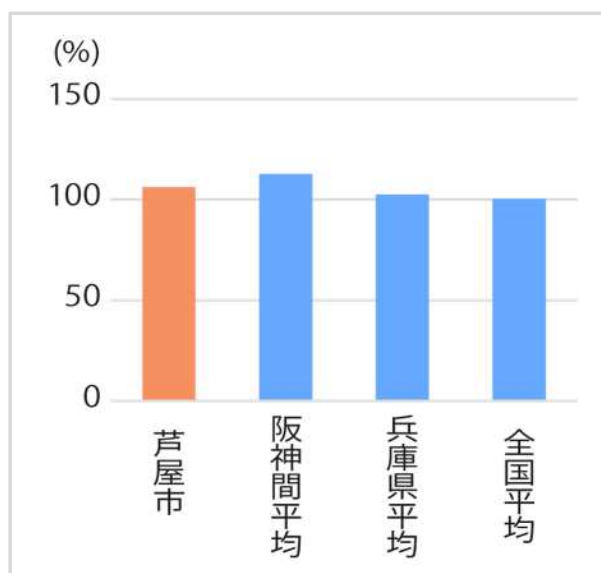
本市では、平成14年（2002年）に使用料改定を行いました。また、企業債の繰上償還による支払利息の削減に取り組んできた結果、企業債残高は近年、減少傾向にあります。



使用料収入・企業債残高の推移

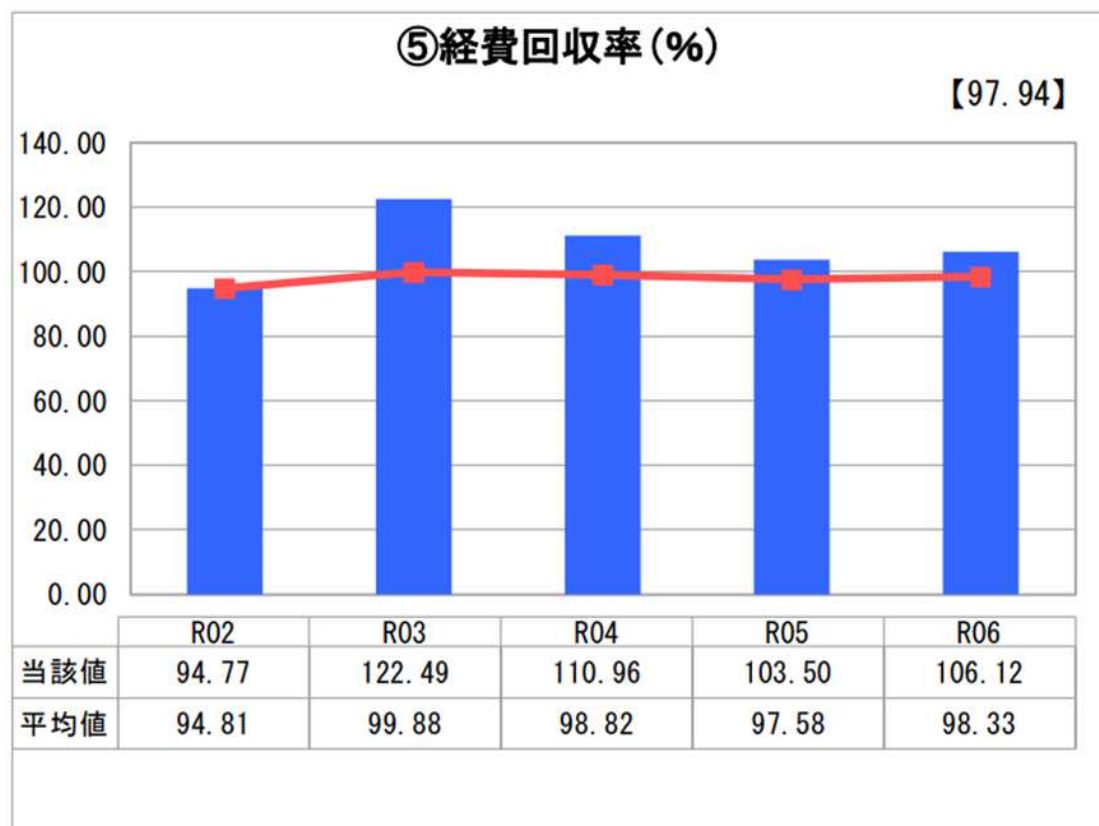
4 使用料と財務状況

$$\text{経費回収率 (\%)} = \frac{\text{使用料収入}}{\text{污水处理経費}} \times 100$$



経費回収率
R6 (2024年度)

4 使用料と財務状況



経費回収率（R2～R6年度）

※経営比較分析表より 17

4 使用料と財務状況

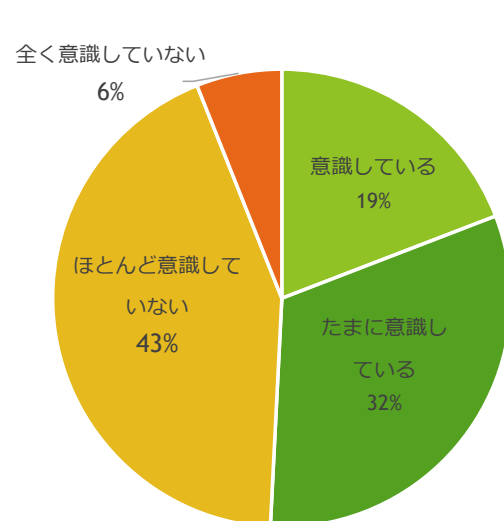
■ 課題

- 下水道事業の財政状況を健全に維持するため、計画的な維持管理及び改築の実施や、業務の効率化によるコスト縮減が求められています。
- 今後増加が見込まれる事業を実施するために必要な財源確保に取り組む必要があります。

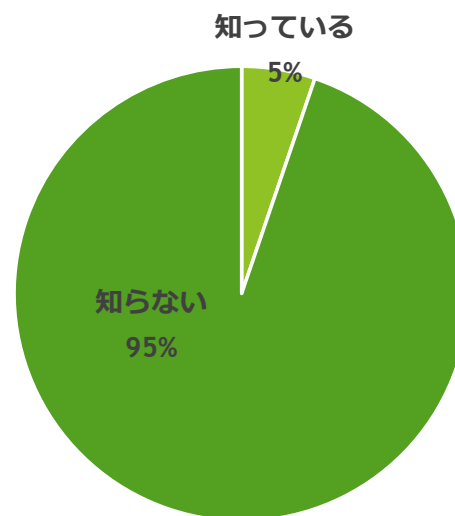
5 情報公開

令和7年度に、市民の方々を対象に下水道事業に関する意識調査を実施しました。下水道の存在や役割について意識している人の割合は19%程度と非常に少ない結果となっています。

本市の下水道使用料は全国でも低い水準にありますが、この下水道使用料の低さは、市民の95%の方が認知しておられません。



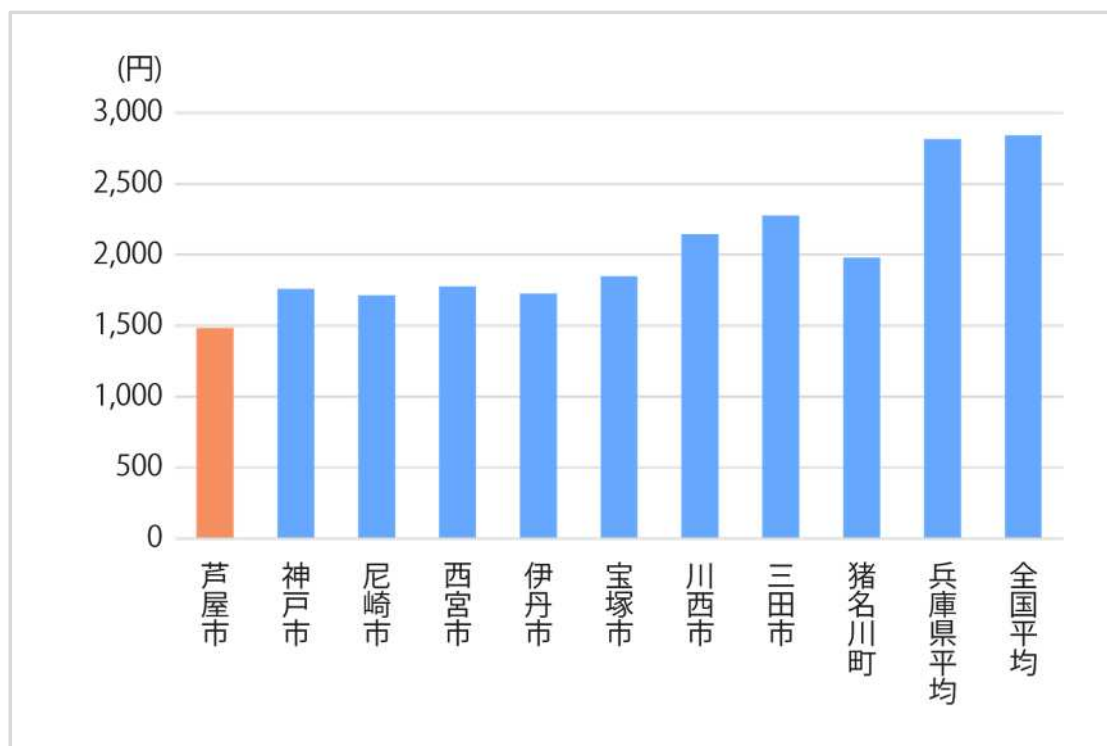
下水道に対する意識度



本市の下水道使用料が兵庫県内で最も低い水準にあることに対する認知度

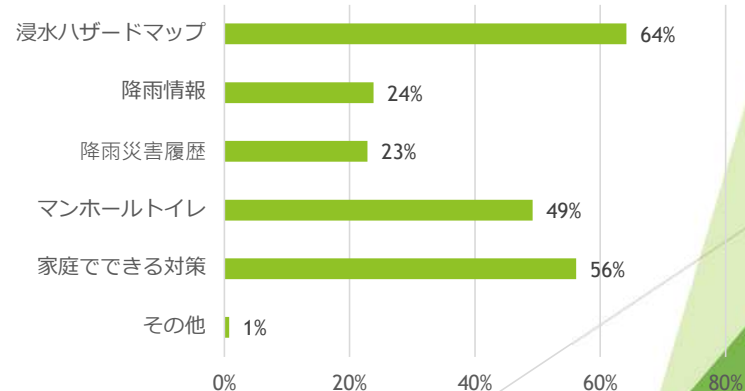
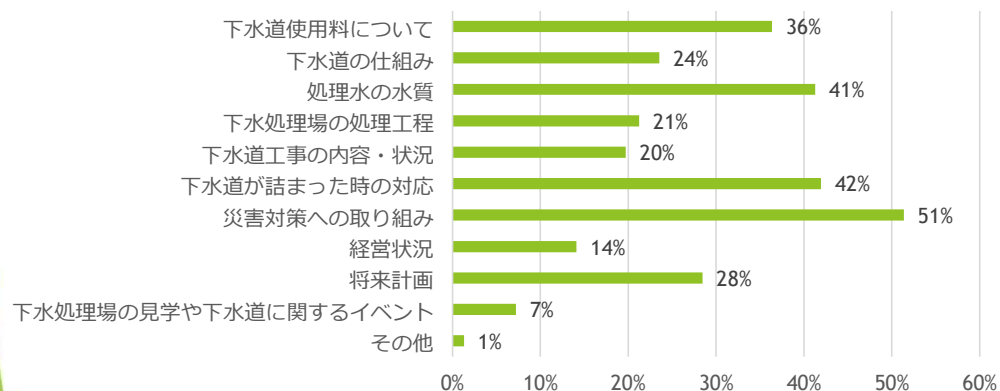
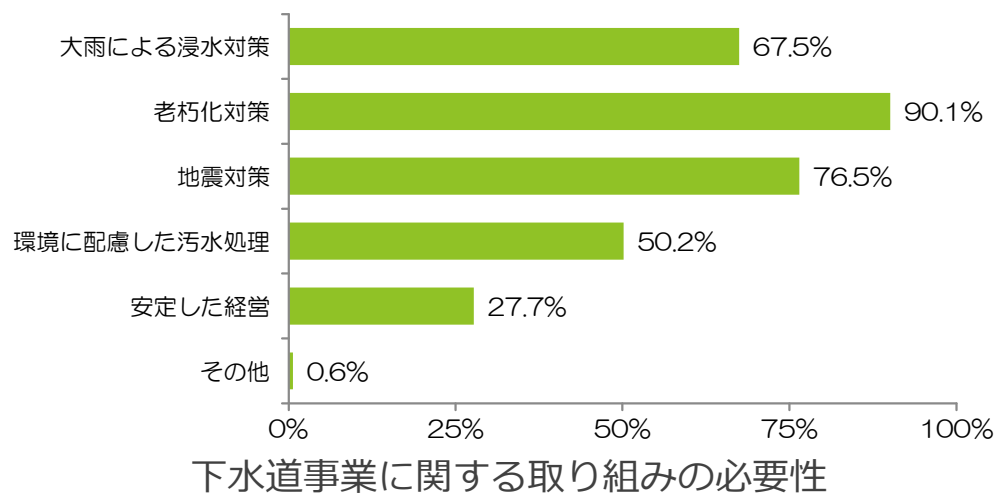
19

5 情報公開



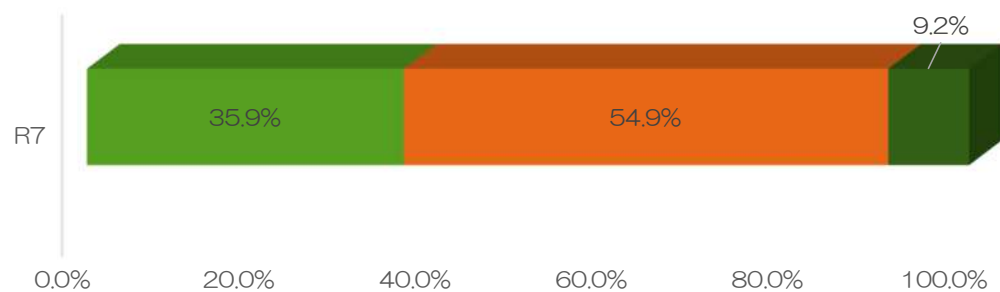
1 か月20m³あたり一般家庭使用料
R6 (2024年度)

5 情報公開



令和7年度水道・下水道に関する市民アンケート

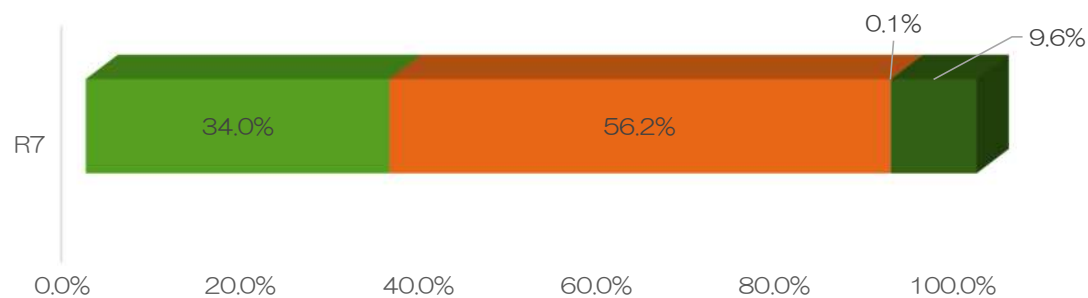
老朽化した施設（下水道管など）の更新を行っていますが、どのように施設の更新に取り組んでいくべきと思われますか。
<○印は1つだけ>



- 下水道使用料を上げてでも更新すべき
- 下水道使用料への影響が出ない範囲で更新すべき
- 更新の必要はない
- わからない

令和7年度水道・下水道に関する市民アンケート

災害に強い施設づくりを進めるため、どのように施設の耐震化に取り組んでいくべきと思われますか。
<○印は1つだけ>



- 下水道使用料を上げてでも更新すべき
- 下水道使用料への影響が出ない範囲で更新すべき
- 更新の必要はない
- わからない

5 情報公開

■ 課題

下水道に対する市民の関心を高め、役割や重要性に対する理解を促進するため、様々な世代に応じて、より効果的な情報発信に取り組む必要があります。